

学生共斗派の宣伝を粉砕する

あきれ果てに暴挙。学生共斗派による
長期監禁・組織破壊活動は完全に破産。

本日同盟東京高経文支部、学生共斗派を拒否し統一会議を組織

全この島反諸君、

本日、早朝、従来学生共斗派指導部の下にあった高経文支部（群馬県）が、学生共斗派の政治主義、セクト主義、教条主義を批判し、その誤れる「指導」を拒否して同盟統一会議への結果を決定した。民主主義学生同盟市文支部（統一会議）は、一連の事態を明らなになった今日（11月）正式にこの間、市文で学生共斗派を行ってき「ソレ」にツバを食す。其の破壊的デマ宣伝を断固粉砕すると共に、全この島反諸君に事態の真相を訴へたい。

高経文支部、学生共斗派指導部を拒否し、同盟統一会議に結集す。

我々同盟の、この間の奮闘的進歩を象徴する一つの輝く成果を報告したい。この日まで学生共斗派の指導下にあった民高経文支部が、彼らの誤る指導を拒絶し、本日早朝、全支部メンバーの賛成の下、我々民高経文統一会議の序列に合流したのである。

同支部は、北関東における指導的の中核部隊として大きな大衆運動をつくりあげてきた。この、更に同盟救済、規約の立場を擁護し、発展させる大衆的実践活動は、当然、学生共斗派の誤る指導とは矛盾するを得ず、これを克服せんと支部全体の長い討議を要する、自らの立場と同一の民高経文統一会議の下に結集する全ての支部、同志と共に闘うことを打ち出し、11月18、12、16被爆者救護法制定全国集まりを波として共同行動をとつてきた。

この中で学生共斗派は、全く喉い組織破壊を行つてきた。この、同盟高経文支部は、我々同盟東京都委員会との協力の下、彼らの策動を断固とてはねのけ、11月16日支部委員会で、本日支部総会して民高経文統一会議への結果を決定した。

この決定はまた、この間の一連の「事態」のその結論として把握しなければならぬ。学生共斗派は、いかにデマ宣伝

を行なつたか、集りの中で組織破壊に乗り出さうと、彼ら指導部の誤りを覆へようとするとは、まさに、関東から二十数名を動員し三馬鹿に組織破壊策動の一切を任せ、逆上その誤りを更に覆うことに出来なかつたのである。

学生共斗派の組織破壊策動、長期監禁を断固糾弾する。

11月22日、高経文支部は、全国各支部の指導を拒絶する「目」を決定して、高経文共斗派は、高経文支部に対して、喉い組織破壊策動をくり返してきしたのである。

彼らは、冬休み中東京、大阪、京都、長野、鹿児島、名古屋等々、全国をまわになり、場合によっては「全国大会」を公然と名のり、客観的には家庭（高経文）ではないという保障はない「持ち込み」した今年には、「オルグ」と称して同盟員、支持者、サークル等の下宿におこなけ、（鎌倉）なっている場合には、それを二つあり、机、ひきださぬであらう。

資料をいじり、監禁を強行した。

いる（、更に軟禁、監禁を強行した。

16日には高崎学生支部委員長とてうえ
それ以後40時間に行たる長期監を行なう
等、全く、基本的人権を無視した悪行を
相次いでい。

我々同盟は、たたる暴挙、同盟組織破
壊を断固糾弾する。

学生共斗派は、これらの一連の事実
（一）真剣な検討を加え、明確な態度を示
（二）いかにして一切の話を資格がない。
我々同盟は、まずオーに、諸君にこれ
らに因る明確な態度を明を要する。

ついでに言つておくと、我々はさ
際、36斗争の緊急な大衆運動の責任
ある立場にあるが故に諸君の様に大衆運
動破産に通ずる、確認書採収趣味、もど
つていた、それはどのにマムでな
い。早急に責任ある回答を寄せられる
ことを期待する。

「民主宣伝を粉砕する。」

学生共斗派の「民主宣伝は全くあき果
てるばかりである。

自らの路線の破産に基づく今回の高崎
学生問題に対する真剣な検討を振るに、
「民主宣伝は組織内の動揺を抑えることに

キョウ／＼といふこと。

我々は、きりと断言する。

彼ら女青年テロ、りく子に相当する行
為は一切なな。た、奇妙なことに、彼
らのいう「テロ、リンチを受けた」は
早大Aは、翌日た、高崎学生支部員
の監視活動に奔走してゐるではないか、
又、17日高崎学生支部委員長を「本
の同意の下」といふ「民主」を、りき
長期監禁で、連絡をたれ、身体が安全
すら確認できない下で、連れ去った場所
の確認をせよといふことによりテロ、リン
と誹謗中傷を加えている。

全くあきれるばかりの悪直りの論理で
ある。
一つの出来事と、一連の諸関係の中
恣意的にとりだ、まてや、その拡大
解釈、尾ひれをつけての「民主宣伝を行な
う」と言ふのと、たとえば裏腹に、諸
君ら、いく「民主宣伝を行なふ」と
、分別ある市大の学生には一切通用せぬ
「民主」を唱へておきたい。

全ての民主的学友は民主同盟に結集し
統一会議と共に歩み。
全市大の学友諸君の。
日本学生運動は今日、労働者階級の大衆

的斗争の高揚、街頭民主路線の破産の中
で、セクト主義、^{樹立}政治主義を拒否し、ワ
ラス、サークル、ゼミを基礎に大衆的、
戦斗的、民主的自治会運動の確立をめざ
す力強い息吹きをまみだしている。市大
にみても同様に、戦線のセクト的分断
に奔走する者は、ワラスたちの統反撃、
孤立の淵に追いやられている。

今こそ全ての民主的学友は、民主同盟に
結集し、統一会議と共に、市大学生運動
の大衆的強化、学生運動の統一の共同の
任務に参加せよといふことを呼びかける。

学生共斗諸君、諸君は、事態の本質
を、きりと捉えるべきである。

何故、諸君ら建設には、高崎経
大支部が、諸君の隊列を離れて、我々同
盟統一会議に結集したのな。

問題を人間的つながりや、偶然的事
柄に拘りて把握するのではなく、民主同盟の
原則的立場と諸君の運動路線の矛盾の必
然的結果として捉え直さなければならぬ
といふべくして、その真の回答を得ない
といふべきない。

そして、そのことな、政治同盟として
今回の問題にたて、まず、おはなら
ないことではないだろうか。

（通）元程、高崎学生支部から、今回
の問題を通じて、我々同盟東京都委員会
をはじめ全国の同志の支援に深く感謝す
る旨、連絡文とじている。

1973年1月10日

民主同盟市大支部統一会議支認委員会